

(11) 社会福祉学教育における学士力の考察

社会福祉学教育FD/IT活用研究委員会は、21年4月、7月、9月、10月、11月の5回開催した。社会福祉学分野では、専門職業人養成の教育に限定せず、社会福祉の機能や役割を重視し、社会福祉の改善に向けた提案力を含め検討を行った。その上で、サイバーFD研究員174人に意見を求め、15人(9%)の意見を可能な限り取り入れ、以

下の最終案を決定した。ここでは、「コア・カリキュラムのイメージ」、「測定方法」を割愛したので、詳細は資料編【資料5】を参照されたい。

※ 専門職業人養成の教育だけでなく、社会福祉学教育の視点から検討したもので、既存の社会福祉士等養成施設のコア・カリキュラムによるだけでなく、今後の社会福祉学教育発展の視点を含めた。

【到達目標1】

人間と社会環境の視点から、現代社会の生活に関わる諸問題を把握し、社会福祉の意義と機能を理解できる。

【到達度】

- ① 人間という存在と家族、集団、地域、制度など社会環境について概説できる。
- ② 差別、貧困、家族関係、虐待・暴力、疾病、就労など現代社会における諸問題の発生要因・歴史的背景・実態について概説できる。
- ③ 現代社会における諸問題と関連づけて、社会福祉の目的・機能を具体的な事例に合わせて概説できる。
- ④ 社会福祉制度・政策および関連施策などについて概説できる。

【到達目標2】

人権尊重および社会正義の理念を確認し、ソーシャルワークの目的・価値・倫理の概要を理解できる。

【到達度】

- ① 基本的人権について概説できる。
- ② 性別、国籍、人種、民族、障害、宗教、セクシャリティなど人間の多様性を通して、共生の価値観について概説できる。
- ③ 人権侵害の状況を理解した上で、エンパワメントの理念と権利擁護の仕組みを概説できる。
- ④ ソーシャルワーカーの倫理綱領を概説できる。

【到達目標3】

ソーシャルワーカーとしての基本的態度を身に付けている。

【到達度】

- ① 他者の話を傾聴することができる。
- ② 受容的、共感的態度をもって対人関係を形成することができ、他者と協働することができる。
- ③ 守秘義務について理解し、プライバシー保護に努めることができる。
- ④ 援助における自己覚知の必要性を理解し、深めようとする姿勢を持っている。

【到達目標4】

ソーシャルワークの専門的な知識および技術を身に付けている。

【到達度】

- ① 社会福祉サービスの利用者を理解し、ニーズ分析した上で援助目標を設定できる。
- ② 生活歴、家族関係、経済的背景、心理的・身体的背景など個別の状況を全体的に把握し、アセスメントについて理解し、説明できる。
- ③ ミクロ・メゾ・マクロのソーシャルワークについて概説できる。
- ④ ソーシャルワークのジェネラリスト・モデルについて概説できる。

【到達目標5】

社会福祉に関する制度・政策を客観的に分析し、新たな社会資源やサービスプログラムを企画できる。

【到達度】

- ① 社会福祉制度・政策について理解している。
- ② 制度・政策の問題点と課題について説明できる。
- ③ 社会福祉ニーズを把握するための基礎的な社会福祉調査の設計ができる。
- ④ 問題解決のために、行政・地域・市民への働きかけや新たな社会資源やサービスプログラムの企画案を作成できる。

(11) 社会福祉学教育における情報教育

社会福祉学教育FD/IT活用研究委員会は、学士力考察をとりまとめの後、22年2月に1回開催した。検討では、社会福祉に関するデータベースの検索法、情報源の選別と情報倫理の体験、演習でのアセスメント・ツールの体験、情報の保存・管理法、適切なメディアの選択などを取りあげた。

【到達目標1】

人と社会および社会福祉の現状について理解し、それらの問題を発見・解決するために必要な情報を収集、整理、分析、活用できる。

【到達度】

- ① 社会福祉の問題に関する情報の所在、構成、背景を知っている。
- ② 適切な情報を収集するために情報の信頼性を識別でき、情報を活用する際の倫理を身につけている。
- ③ 情報検索やソフトウェアの活用等、基本的な情報処理能力を身につけている。
- ④ 多様な情報通信技術を用いて、収集した情報の識別、データベース化、プレゼンテーション等ができる。

【教育内容・教育方法】

- ①は、社会福祉に関する、データベースへのアクセス方法を教える。
- ②は、情報源の選別の方法を教えるとともに、剽窃や著作権、個人情報に関する情報倫理について事例等を用いて教え、体験させる。
- ③と④は、表計算や統計ソフト等を用いて多面的視点から情報の分析、考察、発表等をさせる。

【到達度確認の測定手段】

- ①～④は、レポート、プレゼンテーション、テスト、論文等により確認する。

【到達目標2】

ソーシャルワークの展開過程に情報通信技術を活用できる。

【到達度】

- ① 情報通信技術を用いた多様なアセスメントの方法を理解している。
- ② 支援計画の作成、提案に情報通信技術を活用できる。
- ③ 地域に向けて効果的に情報の受発信ができる。

【教育内容・教育方法】

- ①は、演習・実習で事例を用いてアセスメント・ツールの活用方法を教える。
- ②は、情報通信技術を用いた支援計画の作成方法、データの保存・管理の方法を教える。
- ③は、社会資源の提案や発信にWeb等によるコミュニケーションの方法を教える。

【到達度確認の測定手段】

- ①から③は、レポート、プレゼンテーション、事例報告会等により確認する。